

中国銀行が発行する100パタカ紙幣の図柄にも

ギア灯台（マカオ）

この灯台はマカオの街を一望できる標高の高い要塞に立つ。隣の建物は400年の歴史をもつ教会で、この要塞一帯が世界遺産に登録されている。眼下には煌びやかなネオン装飾を施したカジノや高級ホテルが建ち並び、歴史的建造物と混在しているのがマカオの面白いところだ。

灯台が建てられたのは1865年。中国沿岸部で最も古い西洋式灯台と言われ、日本初の西洋式灯台である観音埼灯台より4年早い。堂々とした太い灯塔は三重県の菅島灯台を彷彿とさせる。設計はマカオ生まれのポルトガル人、カルロス・ヴィセンテだ。

毎年7月の土日に一般公開が行われ、

見学が可能となるので一昨年訪れた。塔の内部は壁際に螺旋階段が配され、中央部は広々とした空間。2階は居室として、作り付けの棚が設置されていた。レンズはフランスのバルビエ社製で、既に電化しているにもかかわらず、吐煙管（オイルランプなど炎で灯していた時代に熱や煙を排出するためレンズ上部に取り付けられた煙突）がそのまま残っていた。真鍮の部分もピカピカに磨かれ、大切にされていることがよくわかる。

この姿は、マカオのランドマークとしてお土産用のお菓子のパッケージに描かれるほか、1パタカ（約14円）のコインにも刻印され、中国銀行が発行する100パタカ紙幣の図柄でもある。

（つづく）



ギア灯台